

江南市まちづくり会議（分野別会議） 議事要旨

会議名	平成23年度第2回 第2分科会（健康、福祉分野）
日時	平成23年10月17日（月） 午後2時～午後4時
場所	江南市役所 2階 大会議室（北）
出席者	市民委員 小椋 雅江、沓名 珠子、福田 正義、平松 宏幸、松尾 昌之、水野 純子、 渡部 敬俊
	市職員 安藤 利継、佐藤 和弥、前田 明廣、箕浦 規師、菱田 幹生
議題	1. 江南市まちづくり会議（分野別会議）議事要旨について 2. 前回の会議の報告事項について 3. 各分野のまちづくり評価シート及び目標達成状況について 4. その他
資料	1. 第1回議事要旨

◆ 会議結果 ◆

1. 江南市まちづくり会議（分野別会議）議事要旨について

- ・事務局から第1回まちづくり会議（第2分科会）の議事要旨に基づき説明がありました。
- ・前回の議事要旨について、原案のとおり了承されました。

2. 前回の会議の報告事項について

- ・事務局及び担当課長から前回の会議で各委員から質問があった箇所について、まちづくり評価シート及び目標達成状況報告書の修正の報告がありました。
- ・まちづくり評価シート及び目標達成状況報告書の修正について、原案のとおり了承されました。

3. 各分野のまちづくり評価シート及び目標達成状況について

- ・江南市戦略計画の前期期間（H20～H22）のまちづくり評価及び目標達成状況報告書について、担当課長から説明がありました。各柱に対する意見等は次のとおりです。

[柱3]個別目標①障害者が生活しやすい社会環境が整備され、能力にあった就労・社会参加をしている

- ・職親委託事業について、職親になる事業主が減ってきており、新たな職親の開拓など障害者の方の就労には課題が多いが、どういった取り組みをしているかとの質問があり、江南市では、1人この制度を利用しており、扶桑町のグループホームで就労している。市内には、1件事業所があるとの説明がありました。
- ・就労意欲がある障害者の方も非常に多く、職親制度がもっと活用できればその機会も増えてくるので、小規模な事業所に働きかけるなど、職親委託事業に力を入れてほしいとの意見がありました。
- ・ハローワーク犬山等と連携して就労した障害者の雇用人数についての質問があり、具体的な人数は把握していないが、今後もハローワークとの連携を強くしていきたいとの説明がありました。
- ・障害者の方がハローワーク犬山に赴くのは非常に大変であるため、市役所内の地域職業相談室をもっと周知するとともに、是非江南市に窓口を復活させてほしいとの意見がありました。

[柱 3]全体目標 障害者が自立し、住み慣れた地域で生きがいをもって安心して暮らしている

・障害者は1人1人全て状況が異なっており、画一的な施策ではなく、障害の実情に即した、個々の状況に合わせた施策を行ってほしいとの意見がありました。

[柱 6]個別目標①生活困窮者や被災者が支援を受け、自立している

・生活保護受給世帯が増加しているが、本当に生活保護が必要な方で生活保護を受ける方法がわからず苦勞している方も多く見られる。既に生活保護を受けている世帯の現況調査とともに、そういった方への指導や説明にも力をいれてほしいとの意見があり、生活保護受給世帯は、平成22年度は397世帯、平成21年度は380世帯、平成20年度は341世帯で、平成23年度は400世帯を超えるなど徐々に増えてきており、ケースワーカーを4人から5人に増やし対応しているとの説明がありました。

・生活保護受給世帯の増加に伴い、ケースワーカーの仕事は増えているが、書類上での審査だけでなく、各世帯の現況を十分調査し、また、民生委員と協力しながら認定を行ってほしいとの意見がありました。

・生活保護受給世帯の年齢層について質問があり、高齢世帯が増加しているとの説明がありました。

・生活保護受給世帯のうち障害者世帯数について質問があり、平成22年度で63世帯であるとの説明がありました。

・生活保護受給世帯の自立した割合について質問があり、平成22年度中に生活保護を廃止した73世帯あり、死亡以外に就労したケースも多く見られるとの説明がありました。

・江南市で生活保護を受けている人数についての質問があり、平成22年度は397世帯、512人で全国平均からすると低い割合であるとの説明がありました。

[柱 4]個別目標①自らが疾病予防に取り組んでいる

・がん検診を受診される方が減っているのは、市民へ広報する機会が減っていることが原因の一つだと思うので、周知方法を検討するなど、受診率が上がるような広報を行ってほしいとの意見があり、減っている要因の一つとして、平成19年度までは基本健康診査制度により、健康診査未受診者は誰でも健康診査を受診することができ、その機会にがん検診についても受診できたが、平成20年度から各保険者が健康診査を行うこととなったため、国保加入者以外は、同時に受診できなくなったことが考えられるとの説明がありました。

・がん検診の受診率向上のためどのような活動を行ったかとの質問があり、広報、市のホームページのほか啓発用ポスターを掲示した。女性特有のがん検診の節目対象者には無料クーポンを配ったが目標には届かなかった。平成23年度は、40歳で未受診者に受診のお知らせを送付することを検討しているとの説明がありました。

・前立腺がん検診についての質問があり、男性特有のがん検診について、現在のような保健センターでの集団検診だけでなく、今後は医療機関での個別検診についても検討していきたいとの説明がありました。

[柱 4]個別目標④市民が安心して医療を受けている

・指標「病院等の医療体制が整い、安心して暮らしていると感じる市民の割合」は目標値を上方修正したほうがよいとの意見があり、平成18年度の基準値49.3%をもとに目標値を設定したが、検討していきたいとの説明がありました。

・1次救急医療と2次救急医療の判断について質問があり、軽い症状での受診は1次救急医療、入院や緊急手術などの場合を2次救急医療と考えており、安易に2次救急医療機関を受診することが無いよう周知を行っているとの説明がありました。

・2次救急医療機関である江南厚生病院の当直は内科医だけであり、その判断により外科や小児科などの担当医が呼ばれる体制になっている。病気やケガの軽度、重度の判断は難しいが、病診連携という考え方も試行錯誤しながら進めているとの意見がありました。

・医薬分業の考え方が浸透してきており、医師と同様にかかりつけの薬局を見つけることも重要であるとの意見がありました。

[柱5]個別目標②国民年金制度への理解が深まり、届出や保険料の納付が適正に行われている

・国民年金の納付率が下がっていることへの対応について質問があり、全国では58.7%、愛知県では61.7%、江南市では62.9%となっている。県平均よりは若干上回っているが、納付率は低くなってきており、まずは国民年金の制度を理解していただくよう広報などで周知したが、目標達成には至らなかったとの説明がありました。

・国民年金制度をもっと理解できれば、自分の老後のために納付する人も増えるはずなので、制度の理解のための啓発をしっかりと行ってほしいとの意見がありました。

目標達成状況 [柱5]保険年金制度の健全な運営

主な取り組み 個別目標①医療保険制度が健全に運営され、市民が安心して医療を受けている

・精神障害者医療は、まだまだ理解が得られていないのが実情であるため、制度の周知をしっかりと行い、受給者が安心して医療機関を受診できるようにしてほしいとの意見がありました。

・子育て支援課長から、少子化問題や厳しい財政状況を考慮すると、今後、保育園の統廃合や学童保育のあり方などに真剣に取り組んでいく必要があるため、市民の皆様とよく協議しながら進めてまいりたいとの説明がありました。

4. その他

・事務局から11月上旬以降に開催を予定しているまちづくり会議（全体会議）の日程が決定したため、日程の説明があり、平松分科会長、小椋副分科会長、安藤高齢者生きがい課長に出席のお願いがありました。

第1回まちづくり会議（全体会議）

開催日時：平成23年11月4日（金）午後1時30分～ 市役所 2階 大会議室

第2回まちづくり会議（全体会議）

開催日時：平成23年11月8日（金）午後1時30分～ 市役所 2階 大会議室

・事務局から分野別会議で委員の皆さんからいただいた意見をまちづくり評価シート及び目標達成状況に反映し、11月に開催されるまちづくり会議（全体会議）へ諮り、12月には議会へ提出し、最終的に来年の3月に「江南市戦略計画達成状況報告書」として市の広報やホームページで公表していくとの説明がありました。